

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600625		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	グループホーム弥生		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町宮地1175番地		
自己評価作成日	平成29年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action_kouhyou_detail_2017_022_kami-trus&amp;livvosvoCd=2172600625-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action_kouhyou_detail_2017_022_kami-trus&amp;livvosvoCd=2172600625-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年10月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の花々に囲まれ見晴らしの良い場所に立地している為、濃尾平野が一望でき緑豊かな自然環境の中にある。個々の部屋から戸外へ出る事ができ、外気浴、お花見、花火見物、夜景などを楽しむ事が出来る。また、居室の並びも路地をイメージした造りで他者の視線から隠れる事のできる利用者の心地よい空間となっている。自然豊かな環境を満喫しながら散歩やドライブ(桜・紅葉等)も企画し実施している。季節の野菜や花も栽培しており、収穫する喜びを実感しその時々季節を感じている。デイサービスを併用しており、毎日のレクリエーションの中から自分のやりたい事、興味のある事を選択し、参加していただく事が可能である。空調設備は24時間完備されており、空気を汚さず人にやさしい伝導タイプである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は見晴らしの良い高台にあり、デッキや共有場所、各居室からも、四季折々の町の景色を楽しむことができる。各居室は、画一的な並びではなく、路地をイメージした造りで、居室前には日当たりの良いホールがある。居室の配置は、一人ひとりのプライバシーを守るために、利用者尊重の姿勢が具現化されていると言える。施設長と職員は、利用者のこれまでの生活の継続と、寝たきりにしないという法人の理念の下、利用者本位の支援に取り組んでいる。また、どんな時も、一人で抱え込むことがないよう「重いボールは皆で持つ」を合言葉に、チームワークを大切にしている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の研修で体験実習を交え当苑の理念を学び相手の立場に立った介護をスタッフ全員が意識し実践をしている。又、朝礼で10か条や語録カレンダーを共有し実践に繋げている	法人の理念は研修等で学び、現場職員が独自に作り上げた「しんせい語録カレンダー」の内容に反映させている。ホームの理念は目に付きやすい場所に掲示され、朝礼で唱和し、職員が自分の行動に置き換えながら、実践に繋げている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地藏盆や地域の祭りへの参加等、地域行事に積極的に参加している。又、併設するデイのレクに参加するなど地域住民とふれあいの機会も多い	地域の行事に積極的に参加している。また、事業所を地域に開放し、公民館的な役割を持って、地域貢献を行っている。小学生や保育園児、地域住民との交流の機会も多く、利用者は地域の一員として日常的につきあいをしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りやミニコンサート、健康教室等の行事を企画し地域の方にも参加して頂けるように発信をしている。委託事業の認知症のカフェを開催し予防や勉強会などを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや近況報告を写真を通して報告し、民生委員や家族代表の方と意見交換をしている。又、家族交流会で会議内容を家族に報告をしている	隔月に開催し、行政、地域代表、民生委員、同法人事業所リーダー、家族代表等が参加をしている。会議に出席しやすい夕刻時間の開催で、会議メンバーの参加率も高い。運営に対して、いろいろな立場からの意見を聴くことができ、話し合いながら、地域の要望にも対応をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に町の高齢福祉課担当者に参加して頂き、事業所の取り組みと近況報告、意見交換を行っている。地域包括主催のケアマネ会議に参加し町からの情報を聞き意見交換している	運営推進会議では、介護保険の動向、制度改正などの情報を提供してもらい、参加者もそれらについて学んでいる。情報の交換と共に、困難事例を相談したり、行政の研修に積極的に参加するなど、密な連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束の勉強会を行い、一人ひとりが理解と再認識する事で、拘束しないケアの実践に繋げている。外部からの侵入を防ぐ夜間の戸締り以外は全て開放し拘束しないケアを実践している	拘束についての理解と再認識をする学習会を行っている。理念である「利用者のこれまでの生活継続をサポートする」を重視し、身体拘束はしない、させない取り組みを行っている。利用者が思いのままに過ごせるよう「丁寧な命令語は使わない」を、合い言葉にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止の勉強会を実施している。言葉や態度による無意識での抑制を防止するためにも、会議などで日々のケアに疑問を感じた事を意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で地域権利擁護事業及び成年後見人制度について学んでいる。必要に応じて成年後見人制度を活用しているケースもあった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき分かりやすい言葉で説明し理解を得ている。状態の変化や重度化に伴い必要となる福祉用具の説明もその都度行い納得を頂いた上で購入やレンタルをもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の家族の面会時にどのスタッフも笑顔で気軽に声を掛け、思いや意見を聞けるような雰囲気作りに努めている。又、玄関に意見箱を設置し意見や要望を記入できるようにしている	弥生通信を定期的に家族に送付し、事業所と家族の連携を深め、運営に対する意見交換をしている。季節の衣類交換や整理などは、家族の協力を得て行い、来訪時は、意見や要望を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人、部門の目標を職員皆で共有し、それを基にした部署の目標を皆で決めている。又、会議やミーティング等ではどの職員も意見が述べ易い環境であると共に、皆で作っていく職場を目指している	対応が困難な時は、職員が一人で抱え込むのではなく、「重たいボールは皆で持つ」とする管理者の姿勢から、全職員で意見や提案を出し合い、話し合いながら改善に繋げている。法人内での実践発表は、職員のモチベーションにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに合った勤務時間、勤務体制を話し合い考慮しやりがいや意欲を持って働く事ができる環境を作っている。又、年度末には一人一事例を作成し全スタッフがケアの振り返りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修に自主参加を求め意欲を持って参加できるよう仕掛けを行っている。又、随時面談を行い個々の課題を確認し合いその課題に合わせた研修を促しスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人勉強会、委員会等で他部署職員と交流する事で事業所のケアの振り返りや新しい発見をし職員や事業所のスキルアップを図っている。又、GH会議ではリスクやケアの悩みを情報共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設デイから移動になる利用者が多くゆくりと馴染んで頂ける環境である。事前訪問で本人、家族からの情報を受け入所後は積極的に関り思いや言葉に耳を傾けニーズや不安を拾いケアに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至った背景を十分理解する事で家族の思いに共感している。又、気軽に話して頂けるような環境づくりに努め、家族の不安や要望を面会時に尋ねニーズを再度確認をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所してから約1カ月をアセスメント期間とし、本人や家族のニーズを確認し本人に合ったケアを提供。又、ニーズによって専門職のアセスメントを受けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが持つ強みを最大限に引き出し、可能な限り利用者と共に家事作業などあらゆる活動と一緒にいき、人生の先輩として敬意を持ち信頼関係を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告し、なかなか面会に来られない家族には電話やメール・通信などで様子を伝えている。居室の整理や衣替え必要物品の購入なども家族と相談し共に行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設する施設から移動になった利用者が今までの馴染みの方と一緒に過ごせるように支援をしている。又、家族の協力も得て行きつけの美容院や喫茶店に行くなどの外出や定期的な面会もある	日常的に、併設のデイサービス利用者と交流し、地域の公共施設にも出かけるなど、馴染みの人と場の関係継続を支援している。また、家族、親戚、知人の訪問も多く、職員は雰囲気づくりに努めながら、再訪に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置や席の工夫により、利用者同士の会話や作業が円滑に出来るよう配慮している。相互の良い部分を伝えながらお互いの存在を認め合えるような声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年は終末期まで利用される方がほとんどである。家族への支援として、他界された後の物故者慰霊祭への参加の声掛けや、手紙のやり取りを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し日々の生活の中でコミュニケーションを図りSOAPでの記録で状態や思いの把握に努めている。又、カンファレンスや面会時には家族と積極的に交流をし本人の思い・家族の希望を聞いている	契約時に利用者の生活歴を把握し、その内容を職員間で共有しながら、日頃の生活や個別ケアの中で気づいたことを、記録に加えている。思いや意向の把握が困難な場合は、本人の行動や表情から、汲み取るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で本人や家族から得た情報を関係職員が共有している。又、以前契約していたケアマネやサービス担当者からも情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた日課表を作成し、ケアプランに添ったケアの提供をしている。情報共有する為にも日々記録を残し出勤時は必ず確認・把握した上で現場に入るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者が原案を作成後、ミーティングや会議で更に皆の意見を確認しながら作成している。又、日々の本人の言動から把握できるニーズ、家族面会時に思いを聞きプランに反映するよう努めている	家族の意見や要望を、把握するための時間を設けている。訪問が困難な場合は、文書で意見交換をしている。担当者の原案を基に、関係者全員で介護計画を作成している。適宜、カンファレンスを行い、状態に合わせて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアはパソコン入力し食事、排泄、バイタル、行動や言動の状況が確認できケアプラン評価の際参考にしている。それを集約し担当者会議などで話し合いケアプランの見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要な点滴、福祉用具の調整、購入など看護や生活療法担当者と連携しながら本人や家族からの新しいニーズに対して柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に地元のスーパー、地域の行事に出かけ顔見知りの関係づくり地域の理解を得る働きかけをしている。又地域住民代表とは、非常時の相互の応援を約束している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしかかりつけの医師と連携を図っている。定期的な受診の際の情報提供や薬の管理も行っている。家族の付き添いが困難な時は付き添う等の支援をしている	契約時に、かかりつけ医の利用について説明し、家族の理解を得ている。協力医は、月2回の往診があり、かかりつけ医に受診の際は、必要な情報を提供している。また、隣接のデイサービスの看護師とも連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスに看護師が配置、又、訪問看護とも契約をし定期的な訪問がある。随時利用者の状態を報告、相談でき急変のあった場合は速やかに対応できる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師や看護師から入居者の状態を確認し家族と連携をし早期退院に向けたカンファレンスを実施し、主治医と協働しながら入居者のサポートをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の際、本人と家族に'事前指定書'を提示し終末期の意向を確認している。必要時にはカンファレンスを行い本人・家族と方向性を確認し合い情報交換している。又、重度化・看取りの同意を得て、その方らしい終末をチームで支援している	重度化や終末期の対応について、契約時に本人・家族に説明し確認をしている。利用者の状態変化時には、早い段階で関係者が十分に話し合いを重ね、医師と関係者が連携し、家族の希望を受け入れながら、終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している他、AEDの設置、緊急時に慌てず確実な対応ができるよう定期的に救急法、消防訓練の勉強会を実施し、実際の場面で活かせる技術を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署の協力のもと実施している。又、部門独自で防災委員を設立し緊急連絡網の通報訓練を実施している	年2回、夜間想定を含めた火災訓練を行っている。器具の取り扱い、関係機関への通報、職員配置などを実施している。また、地域の協力体制も整い、地域住民と共に土砂災害を想定した避難訓練を実施し、意見交換を行っている。	地域の人を交えて、地震災害の体験者から経験談を聞く研修が予定されている。研修が活かされ、地震災害の対応強化にもつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務、目線を合わせる、命令的な言葉遣いをしないなど、職員会議や朝礼で振り返る場を持つ事で常に意識をしている	定期的に、接遇についての勉強会を開催している。職員間で、入浴時や排泄時のケア方法など、利用者の視点でロールプレイを行い、意見交換しながら、利用者の尊厳とプライバシーを守ることを学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の発言に耳を傾け認知症の方にも、まずは「聞く、選んでもらう」を基本としている。状態により意思表示が難しい場合でも表情や反応からキャッチし希望が叶えられるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態や気分などを配慮し、その方にあったペースで過ごして頂いている。併設のデイのレクリエーションの紹介や希望を聞きながら日中の過ごし方を選択して頂き支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髭剃りの声掛け、季節に合わせた洋服を共に選ぶなど、個々に合わせた支援をしている。又家族が同行して馴染みの美容院へ通っている方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お汁の味付けを相談したり、盛り付けや下膳、お膳拭き食器洗いなど、利用者が出来る事を一緒に行っている。又、利用者と相談をしお菓子作りや出前を取ったりもしている。	利用者の誕生日には、その人の好みの食事を提供している。また、希望のおやつを聞き、職員と共に作ったり、好みの菓子などを選ぶなど、楽しい時間が過ごせるよう支援している。食事は、テーブル毎に会話を楽しみながら、ほぼ全員が完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やティータイムの他に個々の要望、状態に応じて家族にも協力を得ながら好みの物を提供している。状態に応じて食事形態や食具を考慮しながら支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨き、義歯の手入れ及びポリドントによる除菌、うがいの難しい利用者には口腔ケア用拭き取りシートを使用し清潔保持を行っている。家族の希望により定期的に歯科の往診を受けている方もいる		

岐阜県 グループホーム弥生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しサインを見逃さず、オムツを使用の利用者も含めトイレ誘導するように支援をしている	職員は、利用者全員の排泄パターンを把握している。排泄は昼夜共に、トイレでの排泄を励行しており、事業所が大切にしている取り組みでもある。「失敗も宝」として捉え、オムツは最後の手段を合い言葉に、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分量に気を配り散歩、テレビ体操等で運動量を確保しながら、ホットパックや腹部マッサージを行う等、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し医師の助言を受けながら取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向を確かめながら入浴に誘い、拒否のある時は無理強いせず別日にしたり、足浴や清拭など体の状態に合わせた対応をしている	入浴は週2回の支援を行い、利用者の健康状態にあわせ、足浴、清拭なども行っている。併設のデイサービスの大きな浴槽で、ゆったり入浴を楽しむ人もある。個浴が難しくなってきた人は、安心・安全な機械浴が利用できる環境である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の利用者には暖かい飲み物を提供したり原因を探り一日の活動の充実を図る支援をしている。高齢に伴い傾眠状態が多くある利用者には休養を取り入れメリハリと安楽な生活を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時にもらえる薬剤情報提供書より薬の目的や副作用、用法用量を把握し投薬内容が変更になった際にはパソコン入力し周知を図っている。特に留意すべき点については看護師、薬剤師より助言を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、仏壇のお供えなど個々の能力に合わせてながらやりがいや役割を持てるように支援をしている。又、在宅での継続として毎日のお経や体操、デイサービスのレクに参加できるよう声掛けをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に買い物に出掛けたり、戸外に出て花を摘んだり、デッキでティータイムを楽しんだりしている。本人の思いを大切にしながらご家族の協力も得てお墓参りや外食、自宅へ帰る等の支援もしている	日常的に、事業所の周辺や散歩コースを歩いたり、外気浴を兼ねて、デッキでのティータイムなど、景色を眺めながら楽しんでいる。買い物や近隣の散策など、利用者の希望を聴き、職員が同行している。年間を通じ紅葉、桜、バラ園などの見学にも出かけている。	



岐阜県 グループホーム弥生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理アセスメントし可能な限り利用者には、必要に応じて用途に注意し自己管理して頂く。現在は自己管理している利用者はいないが、出来る利用者には買い物時に財布を渡し支払う事をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者もみえ、希望時には電話をかけたりかかってきた時は、取り次ぎなどの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白を基調とした木造建てであり、照明の半分が間接照明、冷暖房器具も直接風の当たらない優しい造りとなっている。季節の花を飾ったり、ひな人形や五月人形、冬場は炬燵の設置など、季節の風情を大切にしている	共用の空間であるデッキやリビングからは、季節の移り変わりを楽しむことができる。また、各居室をつなぐ路地をイメージしたホールや、和室でも寛ぐこともでき、利用者は思い思いの場所で、居心地よく過ごしている。キッチンも対面式であり、職員が見守りやすい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごす事が出来るようソファの位置などに配慮している。併設のデイサービスも日常的に利用し共有空間の一つとして機能している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「生活の継続性を大切にしたい」思いを家族に伝え、馴染みの家具や写真を持参して頂き居室作りの協力を得ている。又、室温や衛生面も配慮している	各居室の玄関脇には収納庫があり、室内が広く利用できる。居室内は、オイルヒーターが設置され、乾燥をふせぎ衛生的である。思い出の写真や花を飾り、清潔で居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内共有スペースは手すりなどは無く歩行に不安定がある時は専門職と連携を図り本人に合った補助具の使用で安全な歩行を確保している。トイレ、浴室などリスクの高い場所には手すりが設置してある		